

# 第73回 人権週間 12/4~12/10

国連は、昭和23年に世界人権宣言を採択したのを記念し、昭和25年(1950年)12月4日の第5回総会において、12月10日を「人権デー (Human Rights Day)」と定め、加盟国などに人権思想の啓発のための行事を実施するように呼び掛けています。

法務省の人権擁護機関では、昭和24年から毎年、12月10日を最終日とする一週間を「人権週間」と定め、全国的に啓発運動を展開し、広く国民に人権尊重思想の普及行動を呼びかけています。

## 「人権を守る」ということ

人権とは、基本的人権に定められた「人としての権利」で、生まれながらにして持っている権利です。私たちが生きる社会には、多様な人がいて、様々な個性を持って生活しています。「人権を守る」ということは、その違いを理解し、認めるということです。

### 令和3年度 人権啓発活動年間強調事項

- 子どもの人権を守ろう  
とくに子どもに対する虐待、学校などにおけるいじめ、体罰をなくそう
- 男女共同参画社会を目指そう
- 高齢者の人権を尊重しよう
- 障がいのある人の自立と社会参加を進めよう
- 部落差別(同和問題)に対する理解を深めよう
- インターネットを悪用した人権侵害をなくそう
- 拉致問題の解決を含めた北朝鮮当局の人権侵害問題に対する認識を深めよう
- 大震災に起因する偏見や差別から被災者の人権を守ろう
- 外国人に対する理解を深めよう
- 性的指向及び性自認を理由とする偏見や差別をなくそう
- 感染症に関連する偏見や差別をなくそう

## ひとりで 悩まずに ご相談ください

(法務省人権擁護局・  
全国人権擁護委員連合会)



### 電話相談

相談時間 月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分  
土日祝日、平日の時間外は留守番電話です。

子どもの人権110番 **0120-007-110**

みんなの人権110番 **0570-003-110**

女性の人権ホットライン **0570-070-810**

通話  
無料

### 手紙相談

子どもの人権SOSミニレター

### メール相談

<https://www.jinken.go.jp/>  
(パソコン・携帯電話・スマートフォン共通)

インターネット人権相談  検索



私たち人権擁護委員はあなたの相談相手です。相談は無料ですのでお気軽にご相談ください。(令和3年11月1日現在)

**豊明市**  
豊明市役所秘書広報課  
TEL. 0562-92-8360  
毎月第1・3火曜日  
10:00～15:00

青木 廣康 緒方 誠子  
木村 吉男 五味 一子

**日進市**  
日進市役所市民協働課  
TEL. 0561-73-3194  
毎月第3水曜日  
10:00～15:00 (要予約)

佐藤 正彦 武田 真一  
丹羽 元子 福和 京子  
山本 眞理子

**長久手市**  
長久手市役所福祉課  
TEL. 0561-56-0553  
毎月第3木曜日  
13:30～16:30

青山 八郎 口野 孝典  
堀田 まゆみ 吉田 亘  
渡邊 操

**東郷町**  
東郷町役場地域協働課  
TEL. 0561-56-0727  
毎月第1水曜日  
13:00～15:00 (要予約)

岡田 恵利 小山 富夫  
近藤 安恵 平松 茂

# 人権だより

第47号

回覧

「誰か」のこと じゃない。  
～広げよう 心のバリアフリー 実現しよう 誰一人取り残さない社会を～

## 第48回 人権を理解する作品コンクール 愛知県大会 受賞作品

### 標語の部



最優秀賞 「一人から 世界に広がる 笑顔の輪」

豊明市立立寄中学校 2年 平野 優果 さん

### ポスターの部



入選

豊明市立中央小学校 5年 川上 華奈 さん



入選

長久手市立南小学校 6年 両角 慶太 さん



佳作

日進市立西小学校 2年 磯部 真那 さん



佳作

東郷町立春木台小学校 5年 岩下 心優 さん

第48回 人権を理解する作品コンクール  
愛知県大会 受賞作品

入選

「気持ちに寄りそう」  
日進市立日進北中学校 3年  
所 真椰 さん

私は小さな頃から毎年、祖父母と旅行に行くのを楽しみにしていました。宿泊先の食事がビュッフェの時は、毎回のように祖母が、「私には行かないから楽しんでたくさん食べて来てね。」と部屋で待っているのが少しさみしく感じていました。祖母は私が生まれるずっと前に、とても大きな病気になり、胃を全てなくしてしまっていました。その為食事は一回に本当に少ししか食べることができず、時間もとてもかかるので、ホテルの人や皆に迷惑がからないように部屋で自分のペースでゆっくり食べる事ができました。祖母が度々言うことがあります。「私は見た目は普通の人と変わらないけれど、胃がないというものすごいハンディがある。内臓の病気の人も他の人からわかるように何か目印みたいなものがあればいいのよ。」

二〇一二年から、人工関節を使用している東京都議会議員の方の提案で、ヘルプマークというものが開発されました。対象者は、義足や人工関節を使用している人や妊娠初期の人、内部障がいや難病の人、精神疾患など、援助や配慮を必要としている人たちです。愛知県でも去年から実施されているようですが、私はまだ使用している人を見たことがありません。

せん。障がい者の中でも認知度は半分程のようです。また、知っていてもつけることをためらう人も多いそうです。その理由として、利用時の周囲の反応が気になるという事が一番多く、次に認知不足により役に立たないという事があるようです。そして私はこんな記事を見つけました。うつやパニック障がいを持つ五〇代女性がヘルプマークをつけて外出した時、幼い子供を連れだした若い母親がすれ違いざまに「何あれ。頭のおかしい人が持つやつ？近寄っちゃダメよ。」と子供に言っているのが聞こえて泣いてしまった、というものです。この記事を読んだ時、私は血の気が引く程の怒りと共に、悲しさで胸が苦しくなりました。最低だ…。若いとはいえ、母親である一人の女性が子供に言うことでしょうか。こういった考えを親から聞かされて育った子供が将来大人になった時、ヘルプマークを必要とする方々、身体障がい者の方々に対して理解する事のできる人になるのでしょうか。怒りと共に、無知であることの怖さも同時に感じました。もしもヘルプマークが道路標識のように皆が当然のように知っているマークであったならば、きっとこのような事は起こらなかったでしょう。私たちは自分が健康であるために、そでない方々について学ぶ機会や知る機会がとて少ないと感じます。私もヘルプマークの事は以前にニュースで見て少し記憶に残った程度で、それ以上に関わる事も

考える事ありませんでした。私は祖母を通して、障がいには目に見える障がいと見えないう障がいがあるということを知っていたにも関わらず。

ふと、祖母が言った言葉を思い出しました。「病気はなつた本人にしかわからないのよね。気持ちや体調を察して欲しい、理解して欲しいと思っても、やっぱり健康な人には難しいのよね。特に目に見えない病気だとね、一見元氣に見えるから…」

一番身近にいる祖父や私の母でさえ、祖母の病気を理解し気持ちに寄りそう事はとても難しいそうです。それが他人であるならなおさらかもしれません。私達はどうしたらそういった方達の気持ちに寄りそい、力になる事ができるのでしょうか。私にはとても難しい問題だと感じます。でも、これも思うのです。人は皆、障がいのあるなしに関わらず、お互いを完璧に理解し合う事などできません。でも、相手を思いやりと行動する事、理解しようと学ぶ事、相手の立場になり考えてみる事、これらは誰にでもできるはずなんです。私はこういった事ができる人になりたい、なろうと心に決めました。目に見える身体障がい者の方や、ヘルプマークを必要とする方に会った時、勇気を出さずとも自然に声をかけられる人になりたい、そう強く思うのです。

名古屋法務局・愛知県人権擁護委員連合会主催  
第39回 全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会

標語の部

入選

「コロナだと おしえられても 友だちだ」  
豊明市立栄小学校 3年 林 灯葉 さん

入選

「気を付けて 刃になるかも その言葉」  
長久手市立南小学校 6年 両角 慶太 さん

佳作

「ありがとう マスクがあつても つながる心」  
長久手市立北小学校 3年 磯貝 翔 さん

佳作

「アレルギー せきをただけ つめたい目」  
豊明市立大宮小学校 5年 岩下 芽生 さん

佳作

「人権は みんながもってる パスポート」  
日進市立梨の木小学校 5年 池田 優佑 さん

佳作

「『無関心』心がきずつく 第一歩」  
日進市立東小学校 5年 松田 芽依 さん

佳作

「自分から 言えないヘルプ 気づいてよ」  
長久手市立南小学校 5年 宮田 修和 さん

佳作

「短所より 相手の長所を みつけよう」  
日進市立梨の木小学校 3年 首藤 涼花 さん

佳作

「やさしさは せかいをつなぐ あいことば」  
長久手市立市が洞小学校 2年 森下 律希 さん

佳作

「ありのまま こころの声を うちあけよう」  
日進市立香久山小学校 2年 春山 ひなた さん

佳作

「偏見の 目隠し取れば 変わる世界」  
豊明市立栄中学校 3年 塚本 楓 さん

書道の部

入選

「生きろ」  
長久手市立市が洞小学校 3年  
福岡 珀水 さん

佳作

「友情」  
長久手市立南小学校 6年  
両角 慶太 さん

六年 友情  
両角 慶太

三年 生きろ  
福岡 珀水

小中学生の皆さん、  
作文・作品へのご応募  
ありがとうございました。



入選

## 「みんなが親切に」

日進市立日進東中学校3年

小林 陽菜 さん

通勤通学や遊ぶときによく使われる公共交通機関といえはなにを思い浮かべますか。私がおもうのは電車です。電車は利用者が多いです。そんな電車には「優先席」というものがあります。この優先席、妊婦さんやお年寄りの方、障がいを持った人などが電車で座れるようにするための席ですよ。それなのに、優先席の対象となる人たちが優先席で座りにくくなっています。そんなことがあっていいのでしょうか。

最近のことです。私は高校見学に行くために電車に乗りました。実は私は病気を抱えているので、電車内で立っていることが辛いです。なので、電車に乗らなくてはならないときは席に座ります。この日はあいにく席が空いていなかった。優先席に座りました。すると、「なんで優先席に座っているんだ。」と言わんばかりに周りの人に見られました。中学校の制服を着ていたのだからと分かったのでしょうか。その人たちは学生が優先席に座っていることあまりいい気はしなかったのだらうと思いました。たしかに、私の病気は外から見ただけでは全くと言っていいほど分かりません。ですが、学生が必ずしもみんな元気とは限らないですよ。このような反応をされると私も怖くなり、座りづらいと感じてしまいます。学生にも障がい者にも、誰にでもみんなと同じように人権があります。迷惑がらずに、困っている人がいるのだから優しく手

をさしのべられるようになってほしいです。私は座れない辛さを知っているので、自分の病気の辛さを我慢してでもいつも席を譲るように心がけています。

梅雨入りの頃、あふれ出しそうな期待と不安を胸に、修学旅行に行くために数人の友達と電車に乗りました。たまたま平日の通勤時間と重なってしまったため、押しつぶされそうなほどの人の多さでした。その満員電車の中、友達が私のために空いた席を確保してくれて私は席に座っていました。しばらく電車にゆられ、目的地まであと半分といったところででしょうか。一緒に来た友達の一人が乗り込んできた妊婦さんに気がつきました。すぐに周りの友達と相談し、空いている席はないかと探しましたが、やはり満員電車です。空いている席は一つもありません。そこで、私の座っている席を妊婦さんに譲ることにしました。「大丈夫ですか。席譲りますよ。」と、声をかけると

「駅しか乗らないので大丈夫ですよ。ありがとうございます。ありがとうございます。」

と、断わられてしまいました。その代わりに、転倒してしまわないようにみんなで見守りしました。次の駅に着き、妊婦さんが無事に降りるのを見てほっとしました。声をかけたときの妊婦さんのうれしそうなお顔と、「ありがとう」の優しい言葉に私もうれしくなりました。勇気を出して声をかけて良かったと思います。ですがこのとき、私の心に何か黒いものもやしたものが残りました。妊婦さんのお腹は一目で妊婦さんだと分かるほど大きくて荷物も抱えていました。それなのに一般座席に

座っている人はもちろん、優先席に座っている人も少しも気にせず、ずっと自分のスマートフォンとにらめっこ。その様子を見て私は悲しくなりました。もしかしたらその人も何か正当な理由があつて座ったままだったのかもしれない。でも、気にかけて「大丈夫ですか。」と一言声をかけて様子を伺うことなら誰にでもできます。あのとき、一人でも少しでもいいから妊婦さんのことを気にかける人が他にも出てきてほしかったのです。ですが残念ながらあのとき動いたのは私たちだけです。それなら普段、妊婦さんやお年寄りの方が乗ってきたとき、みんなは今回と同じようにスマートフォンとにらめっこして気づかないフリをしているのでしょうか。妊婦さんたちはどこにも座ることができずに立ったままなのででしょうか。そのことを考えると私は気づかないフリをしている人たちの何ともいえない悔しさを感じると同時に、優先席が必要な方々が心配になりました。もし、席に座れなくて倒れてしまったらどうするつもりなんだろう。なぜ、楽さを求めるために妊婦さんたちが辛い思いをしなければならぬのか私には理解できません。なんのための優先席がよく考えてみてほしいです。これでは優先席の意味がありません。

今のこの社会のままでは体の不自由な人がどんどん不幸になってしまいます。私はそれを止めたいです。体の不自由な人こそ幸せになつてほしいと思つています。私は優先席がなくても大丈夫なくらい、みんなが親切に席を譲れるような社会にしたいです。

入選

## 「健常者」と「障がい者」のはざまにいる私

長久手市立南中学校3年

両角 優衣 さん

令和元年の今年行われた参議員選挙で、重度の身体障がいのある方が当選を決めた。今までも、障がいを持つ方々の中には、パラリンピックを始め様々な分野で健常者に負けない、すばらしい活躍をされている方が数多くいる。しかし、障がいを持つ人が国会議員になるとするのは、私は正直驚いた。(何かといえば、隅に追いやられ、表舞台に立つ事なく、影にかくれ静かに生きていく。)それが障がい者に対する以前の私のイメージだったからだ。しかし、それ以上に驚いたのは、当選を受けて、本会議場の議席の改修や大型車イスが使用できるスロープの設置、多目的トイレの増設など、国会のバリアフリー化がすぐに進められたという事だ。初登院に間に合わせるため、当然と思うかもしれないが、私はこの迅速な行動に深く感動し、私の小学校の時の体験と重ね合わせた。私は骨が弱く、骨折しやすいので、小学生の時車イスを使用する事が多かった。幸いにも、私の通う小学校にはエレベーターが設置されていたため、教室移動などは全く問題なかったが、そこへ行くまでのほんの少しの段差が大変で、毎日母が車イスを持ち上げてくれている。ある日、その場所に簡易スロープが設置されていた。そして、先生から「気がつかなくてごめんなさい。」と言われ、子供ながらにうれしかったのを覚えている。このスロープを皮切りに、車イスごと入れる多目的トイレの増設が行われた。このように、義務

教育の場や商業施設や公共施設などでは、バリアフリー化が進んでいる。受験生である私は、この夏いろいろな高校見学に行った。学力はもちろんだが、校風や通学方法など様々な事を考え受験校を選択していく。しかし車イスを使用する可能性がゼロではない私は、それにバリアフリー化されているかを考えなければならぬ。しかし実際に見学をしていくと、ほとんどの学校がエレベーターやスロープなどは設置されておらず、段差や階段が数多くありバリアフリーとは程遠かった。調べてみると、バリアフリー化されている所は数える程しかなく高校生活を夢見る所が厳しい現実をつきつけられた気がした。ふと私は「車イス生活を余儀なくされている子は、学校を自由に選択する事も許されないのだろうか。」と疑問に思った。同じ人間なのに、楽しい高校生活を送りたいと願う同じ中学三年生なのに、学力以前にふるいで振り分けられてしまう様で身体に障がいがある子は平等に教育を受ける権利を奪われている気がしてならない。多様な社会な現代こそ障がいがある子を見えない存在としてほしくない。健常者と障がい者の区別が、障がい者を保護する物から差別する物へと変わってしまったのはいつかいつからなのだろうか。バリアフリー化は、義務教育の場だから可能なものかもしれない。高校では試験に合格するかも分からない子のために、巨額の大金を払ってバリアフリー化するなどとは、到底無理な話なのだろう。そんな時、世界に有名なバニー人形から、車イスに乗る子や義足をつけた人形が発売された。子供達に人気のバニーが多様な姿を見せる事で、障がい者に対する否定的な見方を取り除ける

のではないかと期待している。そして、スロープ付きのこの人形で遊べば、バリアフリーを学ぶ事ができるし、障がいがあることは、「何も悪くない。」「間違った姿ではない。」という事を自然と受け入れてくれるのではないかと思う。また障がいを持つ子供達にとっても自分と同じ姿のバニーがいれば「私はこれだ。」と自分を否定せず自信を持てると思う。小さな子供の頃からマイナスイメージを払拭できていけば、大人になった時、誰が普通で誰が普通じゃないか、という問いに「皆がそうしているから」とか「昔からそうだった」というような固定観念や先入観や偏見は生まれてこないのではないだろうか。今年「子どもの権利条約」が国連で採択されたからちようど三十年にあたる。この条約は全ての子供の権利を保障する法的拘束力を持った初めての国際条約でこの中には、「教育を受ける権利」が保障されている。又、日本国憲法第二十六条にも「すべての国民がひとしく教育を受ける権利を保障する」と記されている。今思うと、私は小・中学校で本当にたくさんの方と先生方と出会う事ができた。この宝物の様な出会いは、例えば車イスを使用する事があつても毎日何の不安もなく通学する事ができたバリアフリー化されている学校のおかげだと思つている。来年私は高校でいっただれほどの素晴らしい出会いができるのだろうか。人よりも少し骨が弱い私は健常者でもなく障がい者でもない。そんなはざまにいる私をはじめ、サポートが必要な中学三年生の為にも義務教育以外の教育現場のバリアフリー化が早く実現すればいいと思う。人生の可能性を自由に選択できる喜びを奪われないために。

・原文に忠実を原則にしましたが、誤字・脱字等については、最小限の訂正をさせていただいたものもありますのでご了承ください。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会の作品募集は中止となりました。従って、愛知地区委員会奨励賞も選考がありませんでした。

・令和元年度開催の第39回全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会に受賞された生徒の皆さんで、紙面の都合で昨年度掲載できなかった方の作文を掲載させていただいておりますので、学年は当時の学年です。